

山武地区地域審議会 会議録

会 議 の 名 称		山武地区地域審議会（平成２０年度第３回）	
開 催 日 時		平成２０年１２月１１日（木）	開会 １４時００分 閉会 １６時１５分
開 催 場 所		山武市役所山武出張所 第１会議室	
議 長 氏 名		猪野 源治	
出 席 者 氏 名		別添出欠席者名簿のとおり	
欠 席 者 氏 名		〃	
事 務 局 氏 名		〃	
会 議 事 項	議 題 (1) 地域振興基金運用益の活用方法について (2) その他		会議結果 (1) 山武杉を含めた環境課題、公共交通に関する課題、地域交流に関する意見がだされるが、集約までは至らない。（継続） (2) 事務局より、公共交通計画に関する事項、（仮称）さんぶの森交流センターの進捗状況について報告される。
会 議 の 経 過		別添会議経過のとおり	
会 議 資 料		・ 地域振興基金運用益の活用方法 ・ 地域振興基金運用益の活用方法に関する意見提案一覧	
そ の 他 必 要 事 項			
会 議 録 の 確 定			
確 定 年 月 日		署 名 委 員	
平成２１年 ３月 ５日		蕨 明 久	
		松 村 俊 紹	

出 欠 席 者 名 簿

山武地区地域審議会委員		
職 名	氏 名	出欠
会 長	猪 野 源 治	○
副会長	高 橋 照 美	○
委 員	伊 藤 嘉 一	○
委 員	齊 藤 美由紀	×
委 員	鈴 木 章 浩	○
委 員	中 原 佐智子	○
委 員	松 村 俊 紹	○
委 員	蕨 明 久	○
委 員	宇 井 正 己	○
委 員	野 嶋 正 宏	×
委 員	平 山 文 昭	○
委 員	慶 増 倭 枝	○
委 員	藤 田 和 也	○
委 員	山 本 聰	○
委 員	山 本 誠	×

執行部・事務局		
所 属	職 名	氏 名
総務部	部 長	土 屋 守
企画政策課	課 長	秋 葉 栄 一
山武出張所	所 長	若 名 伸 英
企画政策課 企画係	係 長	小 川 陽
〃	主任主事	土 屋 智 子
〃	主 事	伊 藤 佐智穂
〃	主査補	田 中 英 紀

出席 12 名 欠席 3 名

(会議経過)

発 言 者	議 題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
事務局 総務部長	第3回の山武地区の地域審議会を始めさせていただきます。 開催にあたりまして、土屋総務部長より開会させていただきます。 本日は、年末ということで大変お忙しい中、山武地区の地域審議会にご出席いただきまして、大変ありがとうございます。師走ということで次第に慌ただしくなってきたと思っております。天気の方も、今日のように非常に暖かくて過ごしやすい日があれば、寒い日が時々入ってくるといったような状況の中で、健康の方も気をつけないと風邪などをひきやすい状況になろうかというところでございます。委員の皆様にも健康には留意していただきたいと思っております。 さて、本日の主たる議題でございますけれども、地域振興基金運用益の活用方法についてということでございます。委員の皆様には第1回の合同会議のときに、簡単ではございますがご説明をさせていただいております。当該基金の運用益は合併により、地域の活力が失われないよう、旧町村の区域の地域振興や地域住民の一体感の醸成、連帯感の強化のためソフト事業を計画的かつ、安定的に実施するための財源として位置づけられているところでございます。審議を進めるにあたり、先般行われました会長副会長会議で、各地区における基本的な方針を検討していただいたところ、各地区足並みをそろえることが新市の発展に必要であるとの共通認識がなされたところでございます。委員の皆様方におきましては、地域の振興はもとより市民の一体感の醸成、推進するというような取り組みがされるということで、効果的な活用についてご審議してくださいますようお願いしたいと思います。 それでは平成20年度第3回山武地区地域審議会を開催させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。
事務局	さて、会議を進めるにあたり出欠者の報告をさせていただきます。本日の会議でございますけれども、山武地区の地域審議会委員15名、欠席の報告を受けている方が3名、齊藤委員さん、野嶋委員さん、山本委員さんからとなっており、現在、12名のご出席をいただいております。地域審議会の設置に関する協議の第8条の第4項の規定によりまして、委員の出席が半数以上となっておりますので、本日の会議は成立するということでございますのでご報告をさせていただきます。また、毎回会議録調製のために大変お手数をおかけしますが、挙手をしてからお名前をいただきまして、質問とか質疑をおこなっていただけたらと、事務局の勝手ながら申し訳ないのですが、ご協力のほどお願いしたいと思います。 それでは、会議次第に沿いまして、会議を進めさせていただきます。会長挨拶ということで、猪野会長からご挨拶をお願いします。
会長	皆さんご苦労様でございます。ただいまお話ございましたように、本当に師走もなかばを向かえ、なにかと世話しない近頃でございます、こと多

事務局	くの皆様方お忙しい中、会議のためにご参集いただきましてご苦労様でございます。主旨につきましては、部長のほうからご説明いただきました、地域振興資金の運用益の有効利用法について、各地域で協議して皆さんと横の連絡を取り合って進めていくということになると思います。皆様方には、事務局よりの通知によりまして、多くの方からご意見が出ております。それらについて、まずご説明いただいて、その他ご意見ご提案があればお答えしたいと考えておりますけれども、またその都度柔軟に対応してまいりたいと思いますが、いずれにしても活発なご意見とかにしたいと思っておりますので、以上を申し上げまして、開会に当たりましてのご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。 ありがとうございます。それでは、早速議事に入らせていただきます。地域審議会の設置に関する協議第8条第2項の規定によりまして、会長が議長を務めるということになっておりますので、猪野会長よろしくお願いいたします。
会長	はい。それでは、議事を進行させていただきます。最初に会議録署名委員の件でございますけれども、皆様方の手元に委員名簿ございますか、順次、指名してまいりまして、今回、松村様、蕨様、お二方に、順番ということになりますけれども、お願いしたいと思います。よろしゅうございますか。それでは、松村様、蕨様お二方に署名委員になっていただくことにいたします。後日、会議録が作成されましたら、お伺いすることになるかと思います。その節は、よろしくお願いいたします。
事務局	それでは、会議に入らせていただきます。本日の議題は、まず地域振興基金運用益の活用方法についてということでございます。いろいろとご意見を頂戴してあるわけですが、そのへん事務局のほうからご説明あります。
会長	採りたててございませんので、直接会長さんの方から、ご提案いただきました委員さんの方でのご説明としていただきたいと思いますと考えております。 はい。それでは、過日、皆様方に書類を送らせていただいております。その内容に沿って提案項目ということで、いろいろ提案していただきました。この一覧表の順に従いまして、内容についてご説明を頂戴したいと思います。そして、まず、それぞれの委員さんからご説明をいただいて、そのあとに提出はされなかったけれども、このことについて特にご提案等がございます委員さんのご意見もできればいただきたいと思います。皆さまからのご提案等が終わりましたら、どのように形にしていっただい、迷うところもあるわけですが、硬くならずに対外的にいろいろと意見交換なり、ご質問なり、あれば委員さんに対する、提案に対するご質問等も結構だと思いますけれども、そんなことで意見交換をして、もし可能であれば最終的に方向を絞っていききたいと思います。そのへんは内容の進み具合によって最終的にはそういう方向になるかということも、また委員の皆様のご意見をいただきながら絞り込めるかどうか、その辺もその時点

	でのお話になろうかと思しますので、そのように進めさせていただいてよろしいでしょうか。 （「異議なし」の声あり）
会長	それでは、この一覧の順に従いまして、内容についてひとつ、補足説明的なものをお願いしたいと思います。では、高橋さんからお願いいたします。
副会長	副会長の高橋照美でございます。過日、書類が送られてまいりまして、なんかあるかということで、手元にありますような5項目にわたって、私の感じたことを出させていただきました。 1番目は、地域の福祉介護、健康に関する事業と具体的になっていますので、内容はちょっと外れるような内容になる所があるかと思いますが、第1番目のですね、これに関しては現在の私、成東病院に2ヶ月ないし1ヶ月通院をしております、成東病院それから日向の駅それから成東駅、松尾駅中心に、成東病院を中心に3つの駅、その周辺を回る巡回バスのようなものが、充実した内容で運行させているかどうか、ちょっと勉強不足で知らなかったのですが、病院の玄関にたまたまバスが停まっております、そして時刻表があるので見ましたら、一応私が考えていたのと同じルートの北回り線と南回り線のバスが通っているのが確認されました。これは一応、実現しているのだと思いました。時刻表見ましたら、これがまた非常に少ない1時間に1本あるかないかというような状態の時間帯もありますし、これではですね、これから高齢化になってきてバスを頼りにして、病院を利用する方が増えてくるのではないかということで、もっと充実をしないといけないということを感じたので出させていただきました。 それから、次の2番目地域の産業活性に関するというのは、今、進行中の交流センター、その交流センターで設計がだいぶ変わってきて、今の進捗状況がまだはっきりしたところまで出ておりませんが、この間も説明会があり出席しましたら、だいぶいろんな意見が出ておりまして、若干、最初の案よりは少し縮小されたような設計図が提示されていたので見ましたが、いろいろと意見が出まして、これももう少し検討する余地あるのではないかという意見が出されたと思うのですが、その中で、農場に携わる非常に農場の研究されている市民の方から、これから休耕地が増えているところ、また後継者がいなくなっている状態で、遊んでいる畑が多いのでそれをなんとか農業再生というか、活性化をするために、やはり研修施設というものを交流センターの中は無理なので、外にでもなにかログハウスといったら大げさですけども、それも、しかも地元にある産業の山武杉を使った、材料を使ってちょっとした小屋をつくって、そこを研究室のようなものにして若い人たち、農業を勉強している学生たちを含めて、定年になった方で農業をやってみたいというような方を呼んでそこで農業の研修をして、しかも宿泊施設をつくると、これは旅館業法でも

って難しいので休憩室のようなことにして、寝袋でもいいからもって泊まることも寝ることも1泊することも2泊することもできると、自炊をすればいいかというようなさまざまな意見もありましたけど、ぜひ、これはなんとか審議委員会を出していただけないかということがありましたので、出させていただいたわけです。これは非常に私たち大事なことだと思うですね、これからの山武市の農業活性化について非常に心配になっております。ブランド物が山武市には何もない。やはりこれはせつかくのこれだけ35パーセントの農地を持っている市ですので。もっともっと活性化に力を入れて農業を活性化していくべきではないかと、そういう方の熱意も感じまして。

それから3番目の地域フレームなのです、これは、たまたまこの間テレビで八日市場を見ましてですね、皆さん、テレビでご存じの地井武男がその出身だということで来て神輿を担いだり、あれは芸能人だからあれだけの人が集まったのだろーと思えますけれど、それにしても4年に1度だったそうですが、今年はそういう開催をあの辺はやっている、で、いろんなところでかなり大きな祭りがこの間、八街では山車をだして、全部で6地区がやっておりましたけれども、大変なイベントである。ところが山武市には何もないのです。ところが歴史を調べてみますと蓮沼にも非常に歴史のある神社がありますね、それから、その他にもいっぱい神社とかがあるものですから、山車というのはあるのですけど、あまりお目にかかったことがないのだそうです、地元の方も。神輿はあるということで葵の御紋の入った神輿もある、それから菊の御紋の入った神輿が蓮沼にはあるというようなことを聞きまして、それは担いではいけないのだ、そんなばかなことはないだろーとか、いろいろ話しをしたら昔は担いだという話も蓮沼で聞きましてね、そういうことがありましたので、各地区4地区ありますから4地区ひとつずつを蓮沼、松尾、成東、山武とひとつずつ山車をつくってそれで4年に1回の開催を開くというようなことをもっと若い人たち、子ども達もみんな喜んで元気の出る市になるのではないかとということで、これ一種のそれも兼ねた提案でございますけれども、考えまして書きました。

それからこれはぜひ、市の行政執行部の方で考えていただきたいことなのですが、この間、私たまたま、山武ふるさと50キロウォークという歩く会がありました。そのとき私は、サポーターとして参加し、私の担当がオライはすぬま道の駅だったのですが、そのポイントで待っていましたら、ちょうどあの日は日曜日だったのですが、その時、駐車場に観光バスが2台入ってきたのですよ、ところがスペースが無くて停まらないのですよ、それで結局、元蓮沼村役場の駐車場の方にバスを駐車し、乗客降ろしてそれでレストランや食堂行って買い物したりするので、バスは道路隔てて向こうなので、帰りはお客さんまた道路の向こう側まで歩いて帰ったのですけど、たった2台の観光バスが停まらないようなスペースではと。近隣の

	土地を確保して観光バスを10台停められるようになれば、それで乗用車も停められる、そうしますと、いわゆるあそこは観光のポイントになると思うのですよ、その先にいくと子どもの国や展望台のある公園もありますし、そういう地の利を非常に得たところでしかもあそこはいわゆる空港道路として芝山埴輪道路で、成田空港のほうからもバスが来て、今現在シャトルバスがあそこは通勤バスのような状態で運行しておりますけれども、非常に観光のポイントとしては最高だと思いますので、あその土地を何とかして確保していただきたいと思いましたので、オライはすぬまに関して書かせていただきました。 最後、これはですね、大田区の姉妹都市なのですが、現在これ私個人的に進めております。大田区の方では、ある議員が議会に出せば通ります、通しますということをしてそれは山武市さんの方の高橋さんの方をうまく動かしてくれればこちらの方は受け入れできるという事になっているのです。それで、たまたま私が議員を何人か知っておりますけれども、そしたらぜひそれはいいことだ、ということでもちょっと調べましたらね、あそこには蓮沼商店街というのがありましてね、いまから何年か前に、合併する前、蓮沼村のときに商工会だと思うのですが、その方々がハッピーをつくって、東京の蓮沼商店街で農産物の販売をやっていたそうなのです。ですから、交流はもう既にできているのですね、だからいつのまにかそれがもうなくなって今はやっていないのだということを聞きまして、そういう実績があるのならば、ぜひ何とか復活させられればということで容易だということで、これは何とか進めていきたいと思うのです。これは小学校単位でそれでこれ私市長に直接話したら、大田区の人口が63万人で、ここは6万人欠けています、目線があわないからちょっと無理だなんて市長言うものですから、目線の問題じゃないでしょうと言ったのですけどね。とにかく小学校単位でもってひとつの学校と向こうの小学校とが交流するということは可能ではないのかな、なんて市長おっしゃっていたけど、いやそんなことではだめだと私は思っていますので、ぜひ大田区、山武市、市と区が姉妹都市提携して、こちらの子どもが向こうに行きますと大田区にはいっぱい日本で一番大きな大田青果市場があります。それから羽田空港はB滑走路がちょうど右側の方にあるものですから、とってもいい飛行機の滑走が成田の飛行場のなかで見学するのと違って離着陸、特に着陸がすごいのですね、煙がパーとでますからね。そういうのが目の前に見えます。 まあ、そういうことで、提携をぜひ実現させたいということで私は提案しました。
会長	ありがとうございました。 次に伊藤さん
伊藤委員	はい。伊藤です。最初に、運用益ですね、これは定期的にどういう形で、将来的にどういう方向性で進んでいくわけですか。
会長	現在、だいたいどの位あるかということですか。

伊藤委員 事務局 会長 事務局	はい、そうですね。 よろしいですか。 お願いします。 いま、地域振興基金の積み立てというのは平成18年10億、19年に10億ということで20億その金利が、1.25から3ぐらいだったと思うのですが、おおむね2,500万、年間利息だけで、その資金を使ってということでいうことで今回お願いしているということですから18年の分もあと残り3年くらいそういうかたちで、計画していけますし、19年の分にあたるのがあと4年そのぐらいの期間は、保証されておるといような状況でございます。
伊藤委員 事務局 伊藤委員	ありがとうございます。ということは、一応これから5年ぐらいは2,500万の予算がたてられるというふうに解釈してよろしいのですね。 はい、結構です。 わかりました。私の場合は山武杉の保全に関わる山林環境整備ということで、提案をさせていただきました、高橋副会長のようにグローバルに考えられなくて、地域性ですね、今、目の前に見えている、山武杉そのもの本当にここに書いてありますように、昔は山武杉といいますと、建具材として全国で有名だった材料が今、三嘆たる形になってしまっていたのが現実だと思います。これはいまここに書いてありますけれども、山の斜面とか枝落とし、間伐、植樹こういうことを今からやっておかないと駄目になってしまうので、たまたまそういうことについてですね、バイオマス事業やいろんなNPOもできているようですので、この資料の中で、そういうものに支援をするというものがありましたので、これを提案させていただきました。もっと他の地域のことも考えて提案すればよかったのですが、私の場合、地域の中の山武地域ということで、細かい小さな枠のなかで考え、これをこの事業にあてたら、次はどういうふうにやると大きい形で2,500万のお金ですからいろんなことをやってもすぐ飛んでしまうと、まとめて事業をさせていただければそれなりの成果がでるのではないかとということで、一枠で山武杉の山林環境整備ということで、提案をさせていただいたわけでありまして。以上であります。
会長 中原委員	ありがとうございます。それでは次に中原様お願いします。 いま、伊藤さんのお話でだいたい私が話したいと思ったことをほとんどというか言っていたので、山武杉についてはひとつには私が思ったのは、何かできないかということ、それからもうひとつは、私も住んで少したってかなり大きくなった木があるのですが、それからもうひとつは花粉症っていいですか、スギ花粉になっている人が多いので、少しそれをなんとかならないかなというのは、大きくなった杉というのは、家が日陰になってしまって、これはちょっと個人的なことになりますが、他を見てもやっぱり木が大きくなって家が日陰になっているところが多いのと、その大きくなった木が、それだけで済むならいいのですが、ときどき台風な

会長 藤田委員	どが来た後、見ると大きな木が倒れていたりすると危険ということも、考えられるので、せっかく杉があるのに有効利用してないので、伊藤さんがおっしゃるようにそれをプラスのほうに何かできないかなというので提案させていただきました。 もう一つは、空き家の利用というのは、私の住んでいる団地は20数軒しかないのですが、空き家が4、5軒あり、そのままになっているのです。ここは老人保健施設というのが日向の外にあるだけで、あと、病院もそんなに近くないし、なるべくなら元気でずっといたいという、でも1人になったら1人でできないこともあると、テレビなんか見るとよくグループホームなんかで上手にやっているところがあるから、そういう空き家を利用するとかそれからハンディキャップがある人達の作業所なんかをつくるのに借りたりしたらいいのではないかなと、ちょっと女の人の目線で細かいことなのですが、そのまま、放っておいたら家なんて腐ってしまうのでは、特に雨坪というところは湿度の高いところなのでそういうふうにご利用できたらいいのではないかなと思って提案しました。以上です。 はい、ありがとうございました。 それではひきつづきまして、藤田さんお願いします。 結構、地域の特性が目に見えている意見があるなと思って、私もその中の一つに山武杉とか森林関係の意見書、提案書を書かせていただきました。この項目ということで山武市全体における、バイオマス推進事業、支援、これにぜひ有効活用していただきたいと考えています。内容ですけれども、京都議定書の前から温暖化ということで、温暖化防止を率先して、わが山武市からおこなっていききたいと、それとあわせて地域ブランドの復活を目指すということで、この主旨は、森林の荒廃を阻止して、地域ブランドを復活して、活性を図ることになります。どんなことに具体的にこの運用益を活用していったらいいかなということですが、CO2の削減地域の活性化森林整備の要する費用それから、森林ボランティアの助成、山武市全体の森林再生支援、林業者、山林所有者など数えるほどですが、そういった方の助成制度ということでございます。ここには書いてないのですが、経済環境部農林水産課のバイオマス推進室ですね、現在の山武杉ですか、山武市の森林の状況どうなっているのかということでちょっと調べてみました。それで、バイオマス構想というのは旧山武町が千葉県で最初に平成17年度に計画し、合併後、それが山武市の方へ引き継がれているという状況になっております。現在森林の面積ですが、山武市の森林面積は約4,200ヘクタールで、実に市の面積の約29パーセントが森林、ほとんど山武杉ということです。その中でも、旧山武町の方は、2,453ヘクタールということで、他の松尾、成東、蓮沼地区よりも、一番森林面積が多くて、実際に森林整備に関する補助、県、それから国あるいは森林組合の方から、再生事業とかあるいは機能強化対策事業ということで、溝腐れ病とかあるいは下刈りとか間伐とか、補助がでているのです。
-----------------------	--

	けれども、それにしても現在追いついてはいないという状況だそうです。山武市で、京都議定書のCO2削減の話で、今は、年間約10ヘクタールほど森林の方、再生、間伐あるいは全伐するそうですが、これ10ヘクタールじゃなくて本当は80ヘクタールですね、これが理想でこの勢いでやっていかなければとても森林再生は見込めないということです。森林再生の問題点ということでやっぱり一部とかちょっとしたところだけをやるのではなくて、全体的にやはり、山武地区だけでなく全規模でやっていかないとまずいということです。レジュメに戻っていただいてその対応策を私なりに考えたところでは、この支援とか助成ですね、運用益の活用の話ですけど、いろいろ専門家とか林業者、あるいは一般市民から、市民体験型の会議、いうなれば山武市市民再生会議のようなものをつくって、今、これから山武市を担っていくであろう若年層の意見も積極的にとりいれながら、運用益からでる助成、支援金の使い方の詳細や今後の山武市のバイオマス事業のあり方、あるいはこの構想をスムーズに進められるようにする必要があります。地域ブランド復活ということで地域活性化の起爆剤にもなってもらいたいと思います。私はこだわるわけではないのですが、私が言うのも変ですけども、こういう荒廃した山武杉を、やはり孫子の代まで残していいものかというものかというところが非常に気にかかって、こういう意見を提案させていただきました。以上です。
会長	はい。ありがとうございました。
山本委員	次に山本様お願いします。 この町に、移ってきてまだ3年、非常に若いのですが、ただ私は横浜から来たのですが、横浜で貿易会社やっていますね、それで主な取り扱いとして、アメリカ杉を使ったログハウスそれから、公園施設そういうものを扱っていたのです。年商5億ぐらいあったのですが、ただ私大病をしまして、後継者がなかったものですから、途中で会社を解散して療養生活に入りました。それで、元気であった頃から、いつかはこのようなところで住みたいと思って移ってきたのです。ここに移ってくるにはですね、ここが山武杉の産地だということで、あるいは、前の経験がお役に立つかなというような気持ちもあってきたのですが、この町に移ってきてがっかりしたのは、私は木工細工みたいのがあるのではないかと、そういういろんなものを活用して、利用しよう、展開しようというような動きがあるのではないかと、思って来たのですが、そういうものがまったく感じられないとこれはもったいない話だと、それでバイオマス利用の話がきましたけれども、私個人的には〇〇という会社があるのですが、そこが木粉、木の粉末を樹脂で固めたような合成木材をつくりましてね、その商品開発をやってくれと頼まれていったことがあって、いくつかの商品を出したことがあるのですが、そういうなんていうかいろんな新しい商品にチャレンジするような雰囲気が町にあればいいなと、ところがそれがどうもないと、このへんもうちょっと考えていったほうがいいのではないかと気がしたの

ですが、ですから本当はそれをやりたいのですが、その前に、私が、近くの団地の自治会長を頼まれてもう2年やっているのですが、その以前の問題としてさっき高橋さんが言われたバス路線のことですね、これをなんとかしなくてはこの町は駄目になってしまうのではないかと、特に具体的にお話しますとこの1年間で私の団地で3人の人が出ていきました。1人が脳梗塞で倒れて独身の70歳の男性ですが、片方の手が自由に使えなくなって車を運転できないと、この辺で生活できないということで、市川の方に子どもたちがいたものですから、そっちへ移っていきました。それからもう1人の人は、この人は若かったのですが、離婚されて住宅には奥さんが残ったのですが、旦那さんがいなくなって、奥さんは運転できないからこれはもう駄目だからって出ていきました。それからもう1人の方も旦那が亡くなって奥さんが1人残ったのですが、やはり運転できないから出ていきました。この町村合併で良いことばかりではないと、特にこの山武地区はバス路線がなくなったというのは、非常に心理的に大きな影響がでていると。それで、私の住むところは108世帯ですか、東京とか横浜とか千葉とか都会から移ってきた人が多いのですが、そういう人たちはこれまでの交通が便利だったものですから、奥さんとか運転できない人が多いのですね、ですから旦那がいなくなるとどうしようもないと、そういう人は旦那がいなくなるような事態になったらこの町を出ていくと皆さん考えているのです。それは私、自治会長になって皆さんと話したら分かるのですが、年寄りだけではない、いま働き盛りの人もできない、いずれそういう状態になると、だからできればこの町から出ていきたいと、そういう気持ちを持っている人が非常に多いのです、これはちょっとまずいなど、それを改めるには、さっき高橋さんがお話された一番目にお話された、バス路線をもっと考えなくてはいけないと、いま私が1番必要なバスルートだと思っていますのは、さっきもお話でましたけれども、この町役場から元氣館を通過して日向駅を通過してそれから成東駅通過して成東病院、そして成東の市役所に行く、それでこのバスがさらに、成東、蓮沼というふうに進んでいけばこの市を縦断するバスになるわけです。こういうバスを、JRに匹敵するようなもう1本動脈をつくるとそのくらいのつもりで、バス路線をつくればこの町の一体感は市の一体感は生まれてくる。これから非常に生活が便利になる、しかもそのバスは1日2本なんてバスではなくて、少なくとも10本ぐらい通す。山武市の動脈にするつもりで1日10本ぐらい通すバス路線をつくると、もしそういうことがありますと、みんな気持ちが変わってしまうのです、少なくとも私の住んでいる団地の人たちの気持ちはすっかり変わります。というのは日向駅に行ったら簡単に出られる、これから成東病院に簡単に出られる、他の町村との一体感も生まれる、だいぶ雰囲気が変わります。ですから、なによりも先にバス路線をつくってもらいたい。運賃も今の100円でなく200円取ってもかまわない。ここには山武地区だけとりあえず書いたのですが、その先、成東の市役所から、その先

	については、それぞれの地区で考えてもらえばよいのですが、先ほど言いましたように、日向駅それから特に成東病院、ここへ連結するバス路線をぜひつくってもらいたいと。これでだいぶ気持ちおさまりますから住民感情は。今、みんなが感じている町村合併というのは、生活にマイナス効果しか表れていない。生活感覚というのはむしろ合併はマイナスだと、けどこういうバス路線ができればプラスに転換しますから、私は町の発展のためになると思っていますのでぜひ考えてもらいたい。私はそれ一点に絞って提案させていただきます。
会長	はい、ありがとうございます。
	それでは、次に鈴木さん。
鈴木委員	鈴木でございます。今回この話をいただいて、資料の中でいろいろな市町村の例があったので、そのなかで私として提案したのは、地区会議の設置ということで、私が今、思っているのは、なんていうのか昔なんか、部落という単位が山武町にあったと思うのですが、なかなかそのなかでも部落のことその各地域について、話し合う場所が非常に少なくなっているのではないかと、あと、先ほどお祭りとかいろいろな、今までやっていたイベントがなくなったりしているような気がしてならなかったもので、そのなかで秋田県横手市さんのところに書いてあった、「住民が主体的な地域づくりや自治活動を実施するため、小学校地域単位で地区会議を設置」というのが非常にいま私の思うなかでは理想的な話し合う場としてはいいのかなと思って提案させていただきました。小学校の集まりならばもともとの部落住民、私は住む北、山武北地域なんか非常に何世帯もないという集まりになってしまいますので、小学校に通学する部落なり地域の集まりならば、それなりの世帯数が集まりますので、そのなかで、意見をまとめて市や行政のほうに、その地域での問題点やこうしてほしいという要望をここで発案させていただいて、できれば行政地区担当職員制度という名前がここには付いていたのですが、そういう人が各地区会議の担当の行政役員とか行政のパイプ役として、地区会議の中に入っていて、それを行政のほうに伝えていただけるというような仕組みができればいいのではないかなと思ひまして、提案をさせていただきました。この運用益をどうやって使うのだといわれれば、まだ具体的に考えていませんが、その中でこういうものに何かお金がかかるので使いたいというものが、地区会議の中で、できればそこにお金をだしてあげても良いのではないかなと思ひます。以上でございます。
会長	はい、ありがとうございました。
	それでは最後になります、慶増さんお願いします。
慶増委員	慶増倭枝です。私がこのようにしました理由は合併によって、私ども縁がありまして、先祖から引き継いで土地を所有しておりますが、非常に合併することによって、支出が絡み、思わぬ支出でございましたので、このように表記させていただきました。それから、先程もお話にありましたよ

	うに、高橋様だとか山本さんのバス路線の意見、山武に居たくないよ、はっきり言って、私自体がそういうような状況です。ですからなんとか活性化しなければいけない、そして私どもも山林の手当てもしておりますが、5年に一遍はこういう手当て、10年に一遍はこういう手当て、しかし莫大な費用がかかるのです。杉の木が腐れば、CO2、ガスを発生しているのです。しかし、こんなこと言ったらおかしいのですが、私どもだとか、猪野会長さんのお宅だとかはどうにか手当てもできますが、大勢の山林の持ち主さんは、したくてもできないのが現状なのです。ですから、費用もなるべく掛からずにできるというのは、人海戦術しかないと思うのです。言葉でいうよりなにするよりも、小さな子どもから健康なお年寄りまで、またいろんな作業がありますので、木を見ていただく、それからまた杉の葉を片していただく、いろんな作業がありますから、全市民がこぞってこのいわゆる杉の木に、言葉で言うのもおかしいや、集って、もう参加するというのでなく集って、そして活性化を見ない限りは、私は山武の再生はないと思います。はっきり申し上げまして、私も逃げ出したいこれが心境です。以上です。
会長	はい、ありがとうございました。 以上7名の方からそれぞれのお立場でご提案ございました。多少、関連付けられる項目もございますし、わけて考えることもあろうかと思えますけれども、その前に他にこの7名の方以外で、他にありますか。
慶増委員	もう少し良いですか。
会長	はい。
慶増委員	それからですね、バス路線ね、ぜひこれ検討する方向で。
会長	よろしいですか、すでに提案されていますので、またあとで整理させていただきますので。
慶増委員	わかりました。
会長	他に、これと違う角度でのご提案ございましたら、お話いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。
宇井委員	いいですか。
会長	はい、どうぞ。
宇井委員	宇井でございます。先ほど鈴木さんが提案した地域小学校単位、学区でということですが、私もすごくそれがいいなと、それから先だっておこなった産業祭、それからライトフェスタそれから市民運動会、松尾でやった市民大会ですか、あのよううまく学区でひとつの大会を開いてその中から優秀な人を選手として出して、山武市全体の運動会にもっていったら、すごく盛り上がるのではないかな。今のままだと学区だといっていると、本当に知っている人だけになってしまう。選手を探すのに大変なのですね、だからその小さな学区でまず運動会を開いて、その中で優秀な人だけを選手としてその地から送り出すと、そういうようにしていくと2,500万あると、産業祭、ライトフェスタ、そういうものをみんなでやると早く山

会長 松村委員	武市が一体になるのではないかなと。今みたいに、まわり番でやっている と、いつまでたっても、俺は旧山武町だ、俺は松尾だ、蓮沼だということ がなかなか離れられないのではないのかなと、なぜかという、私が中学 校卒業して陸岡村と日向村が合併したときに日向の者だ、睦岡の者だとい うことが長く続いた。それがこの山武中ができて、この子どもたちからは 一つになって、ああよかったなと、早くよくなるには、先ほど鈴木さんが 言った学区で、ひらいたものを中央にもっていくとそういうふうに使くと 毎年同じ金額がそっくりそれに継続して使えるのではないかなと以上でご ざいます。 はい、他にございましたら、はい、松村さん。 松村でございますが、今、お話とも関連があるのではないかと思うので すけれども、小学校地区単位、先程、地区会議を開いたらどうかというよ うなことで、鈴木さんからお話がありましたけれども、今、子どもたち が、いわゆる放課後であるとか土曜日、日曜日どのように過ごすかという ことで、いま世の中ご時世が非常に不安な中で、子どもをゆつくりと遊ば せてあげられない、外でのびのび過ごさせてあげられないような状況の中 で、ぜひ今、子どもの居場所なんてことをいわれていますけれども、その 地区会議というものでいろいろ計画を立てていただいたりすると地区の交 流、その他にも有用なことになるのではないかなというふうに思います。 どうしても、学校を離れてしまうと、家の中に閉じこもってなかなか外で 友達と遊ぶということができないような状況、それから学校は開放しては くれるのですけれども、お孫さんとおじいさんがグラウンドで遊んでいた という姿も今はだいぶもう少なくなっている現状の中で、その辺は、市 のほうでもいろいろとやってくださっておりますし、さらにそういう点を お願いしたいなと思いました。
会長 蕨委員	はい、ほかにございますか。 よろしいですか。
会長 蕨委員	はい。蕨さん 蕨です。冒頭ですね、市民の一体感ということで、その話が進んでいる ようでございますけれども、まず、我々はいろんなところに、いろんな場 所へ出させていただくようになり、だから合併して非常によかったと、友 達がいっぱいできました、今までぜんぜん知らない人ね、友達になってく れてかなり私にはメリットがあるのですが、ただ、一般的にみて市民の 方々が、合併したってなんのメリットもないではないかというような言い 方、これは10人いるうちかなりの人数がいると思うのですね、何もメリ ットもないというようなそういう話を聞くのです。だけでも我々、まあこ ういう会議というのは、どんどん先へ進んでいってしまうわけですね、 そう人たちの意見を、もう少し大事に汲みあげていって、それで一緒にも っていかないとまずいのではないのかなというような感がありまして、提 案させていただきます。

会長	はい、ご意見いただきました。それではちょっとここで休憩を入れたいと思うのですが、そのあとにそれぞれの方からご発言、ご提案ございましたので、それらについてご質問なりまたあるいはこういうことも加えてあったらいいのではないかと、そういう意見交換会をちょっとしばらくの間、時間的にとらせていただいて、あと、それぞれのお立場でご提案ご意見いただいて、みんな本当にごもっともな切実な問題と感じております。ですからどのように集約していくか、方向性についてもご意見いただきたいと思います。それでは、5～6分ほど休憩します。この時計で10分までとします。
会長	(休 憩) ただいま提案書をだされた方に加えて何名かの方から、さらにそれに関連する意見をいただいたわけですが、それらについてある程度、集約していけたらと思っているわけですが、私が個人的に、それで今思ったことは、やはり一つはなんというか、地域の一体感、地域というのは要するに広い意味での地域の一体感とか、あるいは利便性を考えて、交通体系の問題の話が大きな意味で一括りになるかなと。それからあと山武杉、あるいはバイオマスその辺が関連して、交流センターも多少関連するかもしれないのですが、現在の環境問題も含めて山武杉をなんとか再生できないだろうかというような主旨の括りが一つできるのかなと。それと、もう一つ先ほど、学校単位とか地域活性化あるいは地域でのイベントの開催に関して、それぞれの地域、その単位は別としてそれぞれの地域、市全体とか旧山武町ということではなくて、学校区域単位等が一つの手法かもしれないかもしれませんが、そういうことでの、イベント的なものがあれば、効果的なものができるかどうかというようなもの、それに含まれないものも出てくるかもしれませんが、概ね一つに括られるかなと、私のいま整理できた限りで考えたわけですが、いずれにしても、それらについて、ご提案いただいたことについてでもいいですが、ちょっと意見交換を少ししたいと思うのです。長い時間経ってもいけませんけれども、あまり硬くならずについきましょう。あまり相手を非難すると困りますが、ちょっとこういうことではないかということ結構だと思いますので、さらに付け加えるところではないかということも出していただけると、なお結構だと思いますけれども、
蕨委員 会長 蕨委員 2本目2:40	はい。 はい、どうぞ。 蕨です。先程来から皆さんからバイオマスというそういったお話がでています。いま、山武市のほうは10月に、バイオマスタウン、それからバイオマスエネルギー構想タウンということで策定委員会をもう2回会議をやって3回目が17日、それから1月、2月まで5回にわたって、今、要するに計画をどういうふうにするかという、検討している最中でございます、おそらく12月、来月中に3,000人を対象に、アンケート通知がまいりま

	す。こういうふうにある程度、概訳ができています。それがいま約3,000人を対象にアンケートを行うことになっております。これは10月中頃でしたか、策定委員会というのができましてですね、この委員長には千葉大の中込教授が委員長ということで、あとは山武市のほうから4名、農林関係、漁業関係それから畜産、養豚これ代表が1名、私たまたま農業で代表になったので出させてもらっています。あとはみんな外部です。もちろん県もはっています。それから東京電力もはっていますし、それから千葉県の市場、木材市場、市場ですよ、そこの代表も入っています。そういった方々でつくられている。東京にある森のエネルギー研究所というところがございます。その職員が3人来ていろんな会議の様子だとかそれを全部まとめてつくりあげていきますので、おそらく3月には議会のほうに提出されて、4月からある程度執行されるのかなというような、私は考えをもっていますので、いまもう少しまわってもらえると具体的な計画がでてくる。
会長	そうですか。蔵さん具体的に当然そこでいろいろ検討なさっていて、行政の方からもなんか必要なら予算が付いてくるといえるのかもしれないけれども、仮にこういう取り組みの中で運用益の利用法というか使い道なんていうのは、ちょっと今、思いつくようなことがありますか。
蔵委員	前は、基本はやはり山武町のバイオマス構想がありましたよね。それがある程度基本にはなってきたといえるのですが、エネルギーということになると、それだけではなくて、要するに山武市のこれからのエネルギーはどういうふうにするのだと、電気だとかね、そういったものを今の燃料形態に頼るのではなくてね、風力発電だとか、そういう話もでてきているのですが、風力発電は山武市の場所にはつけられないそうです。銚子のほうに行くといっぱいありますよね、飯岡とか、これは常時風速6メートル以上ないと駄目だってことで見送りというようなことで、ちょっと私ども2回、会議でているのですが、前ここから出た話ですね、要するに溝腐れを炭にしてどういうふうに活用するのかということだけではないのですね、話が。
会長	エネルギー開発の話になってしまいますとバイオマスから離れてしまっているように感じますが。
蔵委員	どちらかというと、今、そっちの方に話が進んでいて、皆さん先生方から、凄く難しい言葉でなんかガンガンやっていて、ちょっと私はついていけないような所があるのですが、今、そういうことで、バイオマスについては当然農林水産の方で室ができています。3人の職員がそこに配属されて進めています。
会長	あの、ちょっと話が離れてしまったのですが、あまりあれこれとなってしまうといけませんので、森林とかそれに関してちょっとご意見他にございましたら、それに絞ってご意見できればと思いますけれども。
伊藤委員	一応先ほど私もちょうとお話をしたけれども、結局それをやって次にバ

	イオマスに進むということなのね、その手前の作業ですね、今、管理したり下刈りしたり、これがなかなか林業やっている方々は、採算に合わないということで手を付けられない、そのままに放置されているということであるので、そちらのほうに支援してあげるというそういう方策でお金を使えばいい、で、できたものは何に利用するかというのは、また次の段階で、第1段階は山の整備ですね、これに資金投下していただければいいのかなというような気がしますけども。
会長	整理するにあたって、それを有効利用でバイオマスということで、ただ、具体的にどういう手法でどういうことでやったらいいかなかなかいままでもずいぶんやってきているのだけれども、道が見出せない。
伊藤委員	見た目ね、枯れている木が立ったままになっているし、下はボウボウになっているし、枝打ちはされてないし、というのが現状ですよ。それを取りあえず整理するというのが一番始めの仕事です。それで、間伐で出てきた材料を、何に利用するかというその次の段階だと思うのですよ、だから1回目に山をきれいにしましょう。
会長	そのためになんとかその資金を運用していきたいということ。
伊藤委員	それは、だから毎回ボランティアの方々の、ある程度プロでないとできないこともあると思うのですけれども、団体化して、それに援助してあげるとい、そりあえず先ほど、山武杉のブランド化してという話もできましたけれども、昔の素晴らしい景観がこれから必ず必要になって来る時期が来ると思うのでそのときに、環境もいろんなかたちでプラスになると思いますので、そこらへんに運用益を投下していただければというような考え方。
会長	森林の再生化みたいなものですよ。
伊藤委員	そうです。
宇井委員	いいですか。
会長	はい。
宇井委員	宇井です。それと同じですけど、個人の山をそのようにきれいにするというのは、いろいろ大変なのではないかなと思うのですね、ボランティアできれいにして、木を伐採するというよりも、やるのであれば出光村、あそこに遊歩道をつくって、それで人を呼んで、山武の元気館あり、公園あり、そこから遊歩道を通って、そして最後は蓮沼のオライはすぬま行って土産物買ってというとな整体的にそのお金を利用したらいいかなとそれで、出光村の山がきれいになって遊歩道ができたなら、個人の山もそれから手を付けていったらいいかなと、一つ考えてみました。以上です。
慶増委員	はい。私かねがね言うのですが、いろんな施設を所有していることそれは大変、維持管理費が掛かるのですよ、いままでのようにそういう意識ではなくてね、株式会社山武市、ですからたとえば出光なら出光を手がける時にゾーンを決めて、この部分はいわゆる杉並びに公共的なものに使う、この部分については誘致等いろいろ利用方がありますからね、これは収益

会長	をあげるところ、そのようにゾーンを決めてある程度の構想を練ってからいろいろな作業をするそのほうが私はよろしいような気がするので、ぜひそうしてもらいたい。そして出光は、収益のあがる土地にしてみたいと思います。 山武杉林がこのままではしょうがないという思いはかなりの方が共通認識を持っておられると思うのですけれども、これをどのようにしたらよいのかどのような対応を行ったらよいのかというその手法が見つからないというところではあります。
伊藤委員 慶増委員	きれいにすれば良いのですよ。山を。 慶増です。というのはね、山林の持ち主さんは森林組合屋さんやなにか行けば、情報がある程度わかるでしょ。それであとは、専門の職人とボランティアさんとみんなでおいしい酸素を頂くばかりではなくて、やっぱりお世話になっているのですから、みんながいろんなことで参画する、市民も全体が参画するぞというような意識ができなきゃ、だって極端な話、本当の話しちゃうよ、私朝からだが動かなくなっちゃって、杉の葉っぱとけやきの葉っぱの山、誰も掃いてくれる人いないの。もう本当毎日、私泣き泣きね、本当に我が家見に来てもらいたい。本当にお父さんぜんぜん動けないでしょ、私も大手術しましたのでそれが現状ですよ。
会長	あまりそのことばかり言ったら、あれですけども、私も解っているのですよ、山がきれいになるにはね、木が売ればきれいになるのですよ。木が売れないからやりようがない。
伊藤委員	千葉県で今できている、里山の保全条例というのがあるのですが、県のほうから補助金が出るのですね。NPOなんかついたりなんかしてやってあれは山主から山を借りて、ボランティアが要するに枝刈りしたり下刈りしたりなんかしてきれいすることを仕事にするNPOをつくって。
慶増委員 伊藤委員 慶増委員	ごめんなさい、伊藤さん はい。 そんな生易しくないと思います。現実の話をしますから。山に登るのだって、何歳の人が登っていると思っているの、枝落としだよ。現実ですよ。プロですごい人が、こんな足より太いのを上からみんな落とすんだよ。安いお金で来ると思っているの、ねえ猪野さん。現実だよ。やっぱりそういう人ではなかったら、そういう手当てができない、良いものをつくらうと思ったら、やっぱり良い職人が入って、そして定期的にきちんと管理しなければいけない。
伊藤委員 慶増委員	できる仕事もあるわけですよ。 もちろんできる仕事、下刈りもするのよ。やっぱり何だかんだ言ってもね、指導者が付いていなければ、勝手に山はね、よく言いますよ。悪いけど、勝手に山に入っちゃってね、ガチャガチャやって、そういうものではない。
会長	それではね、またもう少しこのことについても意見とか申し上げたいので。

慶増委員	ちょっと待ってください。農道の掃除もしないで作業しようといってもできませんよ。まず下からきれいにして、そして、約束ごとを守れない、お行儀さえも知らないのですよ。それを教えなきゃいけないのだから、それならきちんとプロの方に来ていただいた方が、手間暇も掛からない。
伊藤委員 慶増委員 会長	べつにそれ悪いってわけではなくて。 悪くないけれども、だから全員がね、全員が参加する。 そのお話はまた後で時間を見つけないかと思ひます。それだけで、終わってしまっても困りますので、次に、地域の生活に関することとか、交通体系の話がでていましたね、それでここでやるのは雑然になってしまうかもしれないけれども、全体として大切なことだと思ひますので、実は市のほうで公共交通機関の見直しとか、これからどうあるべきかについて検討に入っております。昨日もたまたま会議がありまして、そのことについて説明をお願いしたいのですが。
事務局 会長 事務局	会長よろしいですか。 はい、お願いします。 企画政策課の秋葉でございます。慎重な審議ご苦労様でございます。
	今回の資金の運用方法の中に、私聞いている中では、高橋委員さん、山本委員さん、慶増さんもそういった、公共交通についての重要な課題だということで、3件ほど共通の意見が出たと認識しております。その中で、今、会長からお話がありまして、山武市合併して3年目を迎えている状況でございます。本来であれば公共交通網の体系を構築するのは、もう本当であれば3年目を迎えるのであればもう実証運行やいろんな試験運行をして、市民の方々の大事な足となる公共交通網の整備をしておかなければいけないという時期ではないかと私自身は思っております。現実のところ会長のお話があったところ、やっとスタートした時点で、市民の皆様方には大変ご迷惑をかけている、ということで十分認識しております。そのなかで総合計画をつくるにあたって、市民ニーズは、公共交通網の整備を一刻も早く良いものを作ってくださいという要望がたしかに最上位の課題事項にございました。そういった中で、はい、わかりましたそうですか、ということですがすぐこれが出来れば良いのですが、正直な話4地区の今までの公共交通網の実態がバラバラでございました、それを山武市一体としてどういうふうに整備したらいいのかというなかで、地域の特性や今までの既存のバス路線やいろんなものが関わってまいります。そういったものの意見を集約、また地域の方々の住民の意見をしっかり受け止めて、計画をつくらなければ正直な話、空気を運ぶバスになったり、いろんなものになってしまつて最終的なツケは市民の皆様方にご不便をおかけするということになります。そういったことで、山武市役所の中で4地域の職員が当然集まっているわけですから、職員のなかで、旧町村の交通体系とか公共交通はどのような形になっているのかということで、まずは内部で検討委員会を開きまして、今、2回ほど開催しまして、いろんな課題を洗い

出しまして、それを受けて今の会長さん等がご一緒になってこの問題に取り組んでもらっています。地域公共交通会議というのを立ち上げまして、きのう2回目の会議が終わったということでございます。そういった中には、その構成メンバーとしましては、当然地域の代表者の方々、これは地域審議会の会長さんに大役を仰せ付けて申し訳ないですけども、代表者という意味合いで参画していただいていますし、国、県、並びに既存のバス会社、タクシー事業者、公共交通網に関わる方々が一堂に会して、どのようなものをつくったらいいのかということで、現在検討しているところでございます。そういったなかで待ったなしの政策なものですので、いち早く住民の方々にお示しできればよろしいのですけれども、一步間違えれば先ほど言ったように空バスを走るものになりかねないということで、充分検討をいただきまして、タイムスケジュール的にはまだこんなに掛かるのというお叱りを得るかも知れませんが、今回の公共交通会議は年が明けましてもう一度開催しまして、この会議としてはこういった具体的なものはどうでしょうかという案を方向付けしていただきます。それで、新たに年が明けて4月になりまして、では、それからもっと詳しくどのようなものにしたらいいのかという国の補助金をいただきまして、さらにつつこんだ公共交通の体系づくりをすると、それで計画ができまして、これが机上の空論になってはならないということで、22年の4月からやっとな実証運行の運びになるというような段取りでそのスケジュールで動いているところでございます。当然実証運行しても、あくまでも計画で100%の計画とは思っておりませんので、その実証運行を踏まえて、これは再度練り直さなければしょうがないのではないのかということになれば、その実証運行を大幅に変えるのもやぶさかではないと。とにかく住民の方々の意見を十分取り入れた公共交通体系をつくるというかたちで現在進めておりますので、今回ご意見いただいた方には、遅いじゃないと言われるかもしれませんが、そういうことで一步一步着実に歩んでいるということでございます。話が飛びますけれども、年が明けまして1月の17、18日には各地区を回りまして住民の方々に、現在こういう考えがありますよというようなご提示をさせていただいて、ご意見をいただくという段取りになっております。そういったPR等は考えてこれからお知らせ申し上げますけれども、ぜひとも、皆様方そのときにお声をかけていただいて、これではしょうがないのではないのか、こうしたらいいのではないのかといった貴重なご意見などをいただきたいと思っております。それを踏まえて1年間もつつこんだ新しい計画をつくるという段取りになっておりますので、大変ご不便をお掛けして申し訳ないのですけれども、いましばらく、1年でいましばらくと言っているのかわかりませんが、もう少しお待ちいただきまして、皆様方に十分活用していただく公共交通網の整備を考えておりますので、ご理解とご協力の程を賜りたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

会長	よろしいですか。住民説明会の形式というか場所とか単位ということが一つと、あと地域審議会に関係すること、何か検討する事項があるような話を聞きましたけれども、その辺どうなのでしょう。2点お願いします。
事務局	その住民説明会等を受けまして、奇しくもこれが今回の基金の活用会議と話がバッティングする可能性もなきにしもあらずという点がございしますので、そういった住民説明会等を踏まえた中で地域審議会でも貴重な時間を割いて申し訳ないのですけれども、意見交換会を開いていただけたらなと思っております。ただ、1月の17、18日まだ日程と場所等はいま現代詰めているところでございますので、決まり次第お知らせさせていただきたいと思います。
会長	具体的に町村単位ということではなくて。
事務局	旧町村単位です。例えば、17日の午前中を旧山武町、午後は成東地区、18日の午前中は松尾、午後は蓮沼、そういうような形で地区ごとにご意見をいただきたいと考えております。
副会長	すみません。そのときの内容ですけれどもね、路線案というのはそのときは出るわけですか、その地区の、それで意見を聞くという、その地区の住民の意見を聞くという。
事務局	よろしいですか。
会長	はい、どうぞ。
事務局	具体的な路線案はまずご提示は出来ないと思います。
	はい。だいたいのイメージ的なものはお話が出来ると思います。それ以降は、国の助成をもらった協議会を立ち上げますので、そこで細部につっこんでもらうと、決めていただくというような所で、いま公共交通会議の段階では、こういう路線だ、ああいうふうにやりますという具体的なものはできませんけれども、ぼやけたイメージ的なものはご提示しようかなと思っております。
会長	はい、慶増さん。
慶増委員	はい、慶増倭枝です。この交通網のことにに関して、日向の駅、成東駅にもこの進捗状況や何かも含めてご説明をいただきたい。
会長	要するにそういう所への連絡などはどうかという、そういうことですか。
慶増委員	そうですね。というのは。
山本委員	はい。よろしいですか。
会長	はい。ちょっと待ってくださいね。
慶増委員	はい。
会長	山本さん、特にご意見いただいていますので、この件でご質問あればお願いします。
山本委員	役所の方に認識深めてもらいたいのは、役場が移転しまして縮小されたでしょ、それ時点でバスがなくなったのですよ。ですから統合というのは

会長 事務局	生活者にとってはマイナス効果しかないのですよ。統合というのはマイナスなのです。だから一刻も早く、バス路線を復活してほしい。 いまのお二人の。 慶増委員さんから出ました、駅環境は当然公共交通に該当するものですから、駅とかバスとかいろんな公共交通網をリンクさせたかたちの計画案をつくるのはもちろんだと十分認識しております。あと、山本委員さんのほう、いまのご提言は十分胸に刻み込みまして、これからの公共交通会議の方にその旨はお伝えしようと思っております。
会長	はい。いま、交通網の整備等についてということで、ご意見をいただいたのですが、ただ、私そこで考えたのですけれども、この地域振興基金運用益をどのように使えるのかなと。でも、使い道あると思うのですよね。
慶増委員	特色ある地域づくりで、まず第1番が杉の木いわゆる手当てを始めとして実行する。なぜかというのは、過去にここで、いまもさっき質問しましたけれども、ホームの延長という予定があったのです。
会長 慶増委員	日向駅ですか。 そうそう日向駅。それも寸断された、なにも話もあって予算もとっているのだけれども、寸断してします。ですから今度は寸断しないで、杉の木の手当て、これを実行する。具体化する。最優先、最優先課題。
会長 慶増委員	ご意見として分かりました。 そうしないと、どれが1番で何が2番か位置づけしないと一つも前へ進まない。
会長	話し戻りますけれども、交通網についてそういうことがあるからなんとかしてほしい気持ちだということだと思いのすけどね、それをどういうふうに活用できるかどうかは、我々だけというよりやっぱり行政の考えも踏まえてということにしたいと思います。 さてもう一つといいますか。イベントなど、地域的な地域会の何かそういう集まり等を設けることで、下からの盛り上がりだとか、あるいは連携、あるいは交流ということなのすけどねその手法というのはどういうふうにしたらいいかご意見ありませんか。お話の意図は分かるのですが、具体的にはどういうふうにしたらいいのではないかとご意見についてお願いしたいのですが。
宇井委員	全体で使えるようにするには、今、言った、地域で祭りごとに、遊びだから市のなんというか、財政の方ではなくて、この金で遊びのほうにというと、全体的に使えるといいかなと。
会長	冒頭にもあったようにどちらかというとソフトというかな、そっちの方に重点を置いた使い方が本来の趣旨に沿っているのかなというふうにも解釈できますので、それらを地域があるいは4地域が一体化するような何かをやれないかと、では具体的にというとそこまではなかなか難しいですね。
伊藤委員	はい。

会長 伊藤委員	伊藤委員、どうぞ。 伊藤です。先ほど宇井さんが言いましたね、体育祭の話もでましたけれども、昔は各地域で体育祭やっていましたね、旧山武町でやっていたときには、部落の人間が太鼓をたたいたり、結構応援しながらみんな楽しくやっていたのですが、今度は全体的になると、その地域から本当に代表何人かしか行かなくなってしまったのですね。だから今言ったもっと魅力のあるものをつくれば別ですけども、ただその手前に、バックするようで申し訳ないのですけれども、もう一度地域の中でまとまってなんかイベントをやって、その次の段階に行くべきだったのに急に行ってしまったから、なかなか今難しいような気がしますね。
松村委員	松村ですけども、スポーツのイベント、たとえば体育協会が関連しているとか祭りは生涯教育の担当でやるとか、要するにタイアップというのですか、そういう関連をもちろん持ちながら、やっぱり小さな子から大人高齢者までが一堂に会して、何か動くか動かせるかというようなことが大事ではないかな。私の専門としては、子どもの発育、発達の体力が落ちているのが非常に心配しているのですよ。だけど、落ちているという現実としては数字でていますので、それらの今の壮大な本当に大きな夢のようなことかもしれませんけれども、そんなようなものを組み入れてもらって、活性化を掲げた看板。
会長	いま、松村さん言われたように、やっぱりよく言う縦割りではないけれども、そっちのことはこの課、こっちはこの課ということで、それらを統合するなりリンクしたりしないとなかなか難しいのです。それでは首長がやれといえやるかもしれないけど、そういうことがあるのですよね。それをなんとかうまく使えるようなことがないかということですよ。
松村委員	さっきから出ている地区会議ですか、それが活性化といううまく使えれば打ち開けるような気がするのですけれども。
会長	いずれにしてもこういう形で、4地区がそれぞれの審議会をもちまして、それぞれの地域でそれぞれの地域に根ざした、あるいは市全体を見渡した意見がでてくるかと思うのですけれども、それらをまたこの地区ではこれをというふうにしても、それが果たしてその通りにいくかどうかは難しい面もあるわけですし、では、今回はこれとこれをもって臨もうかというふうにしたらいいのかどうか、そのへんをどうしたらいいのでしょうか。
伊藤委員	さっき聞いたようにこれが5年間続くということであれば、最初にこういうものを作って次にこういうものを作ってという形でやることはこれしかないと思うのでその中で、ではそのなかで山武地域の山武杉先にやっしまいましょうという話になれば、それでいいのかなと。
会長 伊藤委員	山武杉としては山武町だけではなく、松尾町もありますからね。 まあそうですね。

中原委員	ちょっと今いろんな議題が出たのですけれども、やっぱり市になって1番ボランティアの、例えば大会とかなんか1ヶ所でやるとすると、今までだったら歩いていけるとか、多少自転車でも行けるとかっていうことがあったのですけれども、とにかく何するにしても距離がありますから、1番公共交通の充実というのを、私は今、運転しているからいいですけれども、あと何年かして、返上しなくてはいけなくなったときに、やっぱり何かに元気だったら参加しますよね。でもやっぱり足がなかったらいけないというのは、1番トップに私は考えますけどどうでしょうか。よろしく。
会長	それみなさん共通の認識だと思うのですよね。ですからなんとかしなければ、でもそれがくまなく十分に解決できるかそれもまた難しいですけれども、しかしより、ある程度のレベル以上には、我慢できる程度の交通体系は欲しいということですよ。
中原委員	駅までというのはいままででも歩いていたわけだから、そこは拠点になるから、そこからできる路線があればできるけれども、
会長	それはいまお話ありましたようにちょっと時間が掛かるかなという気がしないでもないですけれども、それに向けてやっとな動き出したということで始めていますので。この地域の意見も担当者にはよく伝わっていると思いますので、それらを受け止めていろいろと作業を進めていただきたいと思いますので、お待ちしております。
事務局	会長、他地区の経過をお話しましょうか。
会長	はい。
事務局	松尾地区と成東地区が本件について検討しておりますので。
会長	ちょっと教えてください。どういう絞り方、というかどうということになっていますか。お願いします。
事務局	正直な話申し上げます、松尾地区、成東地区におきましても、皆様方のご意見が多数でした。侃々諤々の議論をしていただきました。その中で簡潔に申し上げますけれども正直な話、まとまりませんでした。これに絞ろうということが、できませんでした。ということで、今回1回限りでこの問題がどのような形で出すかというのは、正直な話大変きついところあると思います。そういった所で今までやってきた2地区に関しては、申し訳ないけれども、これらを整理してからということで落ち着いたようなところでございます。ただ、事務局としましてはこの審議が無意味になってしまっただけではないので、現状について、各地区の意見をもとに、会長さん副会長さんには大変ご足労かけて申し訳ないのですけれども、それを会長副会長さんのほうに、正直こういう状態ですよという現実をお話しまして、ではどのような形にしていこうかという、ある程度方向付けとかまた会長副会長さんには大変荷の重い話をするかも分かりませんが、そういったことをしないと、もう結論がなかなか見出せないのではないかなというようなところではございます。そういったことを考えまして、4地区終わりましたら、事務局のほうとしては、内容を整理しまして、4地

会長	区の会長さん副会長さんに再度お集まりいただいて、ご審議いただこうかなと考えております。以上です。 はい。先程来、いろいろお話いただいた中で、ある程度の方向性はさっき言ったように、交通問題とか地域の山林の再生をどうしようかといったそういう問題、それと地域の形がはっきりとはしませんけれども、なんとか希薄になってしまったので、地域ごとのまとまりをもう少しなんとかしようか、というような大まかに言えばそんなことかなとは思いますが、ただ、私の口から言うとおかしいですけれども、また会議やってもどうでしょうかね。
伊藤委員	いま、交通の話は外してよいのですよね。そうではないとまたね。それを入れてしまうとね。この活用方法については市が始めているということですね。
会長	他地区の案も踏まえて要するに4地区が一つになっていこうというお話も聞いている訳なので、私たちを含めてその話になると思うのですが、その辺をちょっと担当者として整理してもらって、それで方向性がそこででるかでないかもわからないことですが、どうも会長副会長にしてもそれでうちの方はいいよっていえるかどうか、これもちょっと荷の重いという言葉がございましたけれども、自信ありませんけれども、それならもう一度、地域に諮るということも必要かなと思いますけれども、ちょっとあいまいなことになってしまうかもしれませんけれども、今日のところはそんなところで、皆さんの意見を十分お聞きしたということで、お許しいただけないでしょうか。
藤田委員	あの。
会長	はい。
藤田委員	藤田です。この数々の貴重な市にとって有効な意見、どれを削ってひとつにするということなののでしょうか。
会長	いずれはそうせざるを得ないですね。要するに優先順位でね、これは駄目だということではないけれども、すべてはちょっとあくまでもこの趣旨は運用益の利用法についてということですので、それを全てにばらまくという訳にはいかないというふうに思われます。それとあまり地域的に偏ってもいけないとも思われますし、それらを汲んで今年度はこういうことにしようかというようなふうになると思うのですが、それはどうでしょうか。
藤田委員	本当であれば、一人一人貴重な意見をいただいて、全部を持っていくのは普通かなと思うのですが、この中で2点3点いろいろマッチした意見、提案が出ていますので、これを事務局のほうに負担をかけると大変申し訳ないのですが、そちらの方でうまく統合してみたり、あるいはまとめて、それで優先順位についてもやはりこのバスの話は取り下げるという話もありましたけれども、バスにしてもバイオマス、地域会議どれも我々市民からとってみると、どれも大事ですよ、森林をやっている人に見れば後継者もない、どんどん荒れ果ててしまうというのもやっ

会長	ぱり大事だし。市民にとってみればバスも大事ですし、そういったところは審議会でこういう意見がでたということで、事務局の方に少し骨を折っていただいて、まあ優先順位をつけるという話ではないのですけれども、最優先課題はこれだというようなことを事務局側で決めてもらった方がいいかなと私は思います。いかがでしょうか。 必ずしも一つということではないかもしれないですね。これとこれを今回事業として汲みいれるというあるいは、補助するということは十分あり得ると思います。
会長 蕨委員	はい、蕨委員さん 運用益で提案する部分とそれからもっと市の行政に提案する部分といういろいろ貴重な意見があると思うのですよ。その辺を分けて提案してもらったほうがいいのではないかと思います。全てこれが、今日、提案された良い案か、運用益で処理するというだけではとてもいかないと思うのですよ。どうせ、市のほうで行政、議会の方で諮ってもらうような部分もいっぱいあるはずですから、その辺をやはり審議会として提案して言ったらどうかと思います。
会長 山本委員	はい。山本委員さん。 私がアメリカのいろいろ商品輸入したのは、アメリカのオレゴン州で、やはりアメリカ杉等が非常に荒れたと、その荒廃を防ぐには間伐をきちんとやると、その間伐材をうまく活用して集合材を、それがあ程度うまくいったと。なかなか難しい問題だと思いますけれども、個人のものであれ、公共のものであれ、ある程度間伐材を買い上げることができれば、お金が還元されて間伐が進むと、さらに間伐材をいかに有効に利用するか、もっと知恵を使っていいのではないかと、例えばですけれども、ログハウス、地震等での仮設住宅がありますよね。あんなものそう長持ちしなくてもよいのですから、間伐材つかってもできるのではないかと、そんなものを山武市で開発してもいいのではないかなというような、思い付きですけどね、なにか間伐材の利用をうまく考えて、民間及び公共の荒れた杉から間伐材を買い上げるというような流れが出来たらいいのではないかなという気がします。
会長	ありがとうございました。このように山林部外者の方からお話をいただけることは大変ありがたいことで、私もたまたま山林所有者ということからお話させていただくのですけれども、おっしゃるようとにかく山林は、将来に渡って管理が必要なのです。特に間伐は欠かせないのですよね、間伐しなければ駄目になってしまうのですから、だけど間伐してもお金にはならない、間伐するのにお金が掛かる、で、とにかく間伐材の利用はいままでいろいろ試行錯誤でいろんなことをやってきたのですが、結局は採算ベースにあわないということで、みんな頓挫してしまって、現在はとにかく間伐材は建築材の生産のための林業ではなくて、環境維持のための林業ということになっているのですよ。私なんか非常に寂しい話ですけ

山本委員 会長 慶増委員 会長	れども、意味はわかります大切だというのは。ですけれどもとにかく環境保全のためにやっぱり里山を育成するためには間伐しなければいけないということで、前は補助金が出てやっていたけど、今は全部そのお金でやってくれると間伐を、でないと間伐を、要するに山主だけではとてもやれないと、去年あたりからとにかく山主には負担欠けないと、だから間伐場所を見つけてくれ、見つけてくれというとおかしいのですけれど、やっぱり事業として要するに京都議定書に示された事項を守るためということですから、まあそんなことですから、それでもやっぱり面積を確保するというのですか、対象を見つけるのは難しいらしいですね。私個人にしてみても、では木を切ってタダでというとは非常に、レベルの低い話になってしまうのですけれども、苗木を買ってずいぶん手入れして要するに20年30年かけて、それ切って捨てるなんて本当に忍びないし、要するにお金にもならないということで、やってくれるのだとやっぱり飛びつく気にはならないですね。だからまだ意識の改革がなってないかもしれないけれども、そういう現状の中でではそれをなんとか方法がないかといっても、どうにもならない。とにかくなんとかしなければいけないというのがいま抱えた林業に対する厳しい状況なのですね。 そこをなんとか考えましょうということですね。 そうですね。そこをなんとか。 何か良くなることを、良循環になるようにね。 かなり時間も経過しておりますが、このあともう一つ簡単に交流センターのことを現状どうなっているのかをお聞きしたいと思いますので、いかがでしょうかおおまかには整理できたわけですから、また会議開くことになるか3地区との兼ね合いもありますし、ただその使い方のこの地域の提案ということは先程来、繰り返しお話を伺っていますので、その辺である程度の優先順位は把握できたつもりですので、それらを踏まえて4地区の会長会議になるか、事務局と我々の会合になるかは、いずれそうなるかとは思いますが、それで当面对応させていただくと、あまりにもちょっと私どもで判断できないような状況だったらそれは持ち帰りというようなことを含めて今日の所はよろしいですか。そのような形でよいですかね。 いいですか。 はい。 さっき私の意見で少し言ったのですけれども、もちろん専門家の委員会もあると思うのですけれども、私なんかのまず若年層にもなにかやっぱり山林保護とか活動ですね、できることはあると思うのですよ、ですので私もそういうこととかのためなら別に時間も惜しまず、仲間も引き連れてきたらいいかなという心持でいるのですよ。ですので、たぶん農林水産関係か何かだと思うのですけれども、この会議とはまた別で審議委員の1人からそういう森林再生のまあNPOとかもあると思うのですけれども、市
------------------------------------	--

	が事務局になって森林再生会議というかそういういろいろな活動とですね、私的なものなど、そういう組織というか団体、まあ自分たちで仲間集めて行けばいいとは思いますが、なんかそういう団体とか、できたらいいかなと、もしそういう計らいをしていただければなのであれば、また頭の片隅にでも置いていただければと思います。よろしくお願いします。
会長	気持ちはなかなか発揮する場所とか場面とかそういう繋ぎというのがないと入っていけないのですよね。その辺が非常に大切なことですがね。
中原委員	ちょっと聞いていいですか。
会長	はい。
中原委員	中原ですが。以前、2～3年前位かな、チェーンソーの使い方とか何かで、研修か何か開きましたよね。あれどこで、行ったのかしら。
会長	そういうのは森林組合とかあるいは行政の方でやったことがあるかもしれないですけども、でも、なかなか実際人が寄らないのも事実ですよ。
中原委員	うちの主人それに参加したのですよ。
会長	そうですか。
中原委員	そういうのをしていただくとね、だんだんその育っていくと、やれる人が、なんかいいかなと。特にリタイアしてもまだちょっと力がある、もうすぐリタイアしますという方などに。
会長	それではもう1点、その他の項になると思うのですが、先ほど申し上げたように、公共交通についてはさきほどご説明がありました。もう一つ交流センターの要するに現状、どうなっているのかということ差し支えない範囲で現状を説明していただきたいと思います。
事務局	では、現在の交流センターの建設にかかる、進捗状況についてご説明させていただきます。先般、第2回会議時、基本設計について皆様方にその内容をみていただきまして、おおすじ合意をいただけたということでありました。その後、市民説明会を受けまして、当初第2回の地域審議会の中でもいろいろと市民の声はどのように取り入れているのかとかそういったところの意見もあったところで、説明会をした所やはり多数いろいろなご意見、ご要望そういったものがでてきた状況でありました。それを受けまして、そのまま基本設計の概略のままで進むということは、若干差し支えがあるのではないかという判断がありまして、その後の庁内、関係課を交え、協議、検討をさせていただきながら、当初は山武市の交流施設、交流拠点という形で位置づけをしていた中にさらにプラス全体を見るなかの前に、まず地域からスタートさせておいたほうがいいのではないかと、まず地域の交流さらに山武市全体の交流という位置づけのなかで新たに再度もう一度見直しをさせていただいて、そういった所を各関係機関、いろいろ議会等そういったところでご説明をさせていただいて、このたび、おおま

	かな方針が決まった所であります。方針的なものについては、地域コミュニティ再生に重点を置きながら、その交流施設を地域の各拠点となるように施設を建設していくという形の中でただいま動いているところです。また、市民説明会だけではなくて、各ボランティア団体、NPO団体等いろいろと皆様方からご意見等をいただきながら、現在そういったご意見を集めまして、庁内で調整しているところです。また、それをうけたなかで、最終的な方向をまた実施設計の最終段階へと入って行くという形で進んでいるところです。設計の方については、本年の10月に契約をしております、実際のそういった作業については、同時進行ということで進めさせていただいております、まだ最終的な形というものが、皆様方にご提示できる状態ではありませんが、最終的にある程度、確定できる段階になりましたら、また皆様のほうにご説明させていただきたいと考えております。おおまかな内容的な部分については、規模的なものとかそういったものは、多少の変更はありますが、おおすじ皆様方に説明した内容から大きく外れるということは、一応、今のところ私のほうではないと考えておりますので、その点はご理解願いたいと考えております。また、ご意見等いただくことになるかと思いますが、その節はまたよろしくお願い申し上げます。以上になります。
会長	タイムスケジュール的な要するに、いつ頃完成するのかという話について、見通しは言えるのですか。
事務局	タイムスケジュールについては、先般ご説明させていただいたときは、22年度に供用開始ということで、お話をさせていただいております。当初の予定では実施設計等に入る段階が7～8月程度で考えていた所が若干3～4ヶ月程度延びておりますのでその辺を考慮していただいた中でも、現時点では供用開始年度自体は、変更はないということで、時期的な部分は4月～5月という部分からちょっと若干遅れて夏過ぎとか、秋口とかそういった時期にずれるのではなかろうかと考えております。その辺についても、設計内容がある程度決まった中で最終的な工期等そういったものが提示できるようになると、その際にある程度具体的な月数とかそういったところを説明させていただきたくご理解ねがいます。以上になります。具体的ではなくて、この程度で申し訳ございません。
企画政策課長	会長、最後によろしいですか。
会長	はい。
企画政策課長	担当のものが山武杉をふんだんに出来れば使えというご要望、ご意見がありましたので、先ほどもお話したとおり各種団体ボランティア団体、NPO団体等々協議をして、なるべく皆様のご意見を反映するようにということで現在進んでおりますので、また遠慮なく忌憚のないご意見がありましたら、どんどんお寄せいただきたいと思います。以上です。
会長	特にご質問ありますか。 それでは、だいたい意見は十分とは申せないかもしれませんが、

事務局	出尽くしたというふうに思います。先程、お話ししましたように最終的に絞り込んだ意見の集約ということまではいかなかったかもしれませんが、だいたい方向性は見えてきたということで、あと他地区との連絡を密にしながら、また事務局側のいろいろと整理等もあると思いますので、それを踏まえて次の段階に進み、もしあまりにもこの地域の意向に沿わないようなことがあった場合には、やはり持ち帰るということも私とすれば考えざるを得ないかなというふうには思いますので、その時はまたご協議いただきたいと思います。本日頂戴した意見が概ね酌んでいただけるようであればいいなとは思いますが、あくまでも調整することもございますし、粹もございますし、今回は見送りで来年ということも有り得るかもしれませんが、その辺はまたいずれお諮りさせていただきます。 特に他に何かございますか。 それでしたら、議題のほうこれを持って閉じさせていただきたいと思います。ありがとうございました。あとは事務局のほうで。 会長、議事進行ご苦労さまでした。 それでは、長時間に亘り、本当にありがとうございました。以上をもちまして、第3回山武地区の地域審議会、滞りなく終了とさせていただきます。長時間に亘り、慎重審議ありがとうございました。お疲れ様でした。
-----	--